

野 外 保 育

野外保育、これは都市でも農村でも考えてみなければならないことではないでしょうか。幼稚園の子どもばかりでなく、広く巷の子どもたちに目をむけてみましょう。とくに、夏は学校も幼稚園も休みになり、道端に、街に、公園に、そして野に山に子どもたちはあふれています。野外保育を考える、絶好の時といえるでしょう。

日比谷公園での野外保育

藤本ミナ子

都会の中心地に住む子どもたちが、自然に親しみ、のびのびと生活させるために、どんなことがなされているでしょうか。この日比谷公園を利用しての野外保育を中心とした幼稚園は、その一つの試みなのです。

朝の九時半頃、青葉蔥る日比谷公園（児童遊園）から、楽しいハトボッポ体操の曲が、流れています。子どもたちのはずんだ楽しそうな声、芝生の若芽にも似た生き生きした姿、すがすがしい空氣、さんさんとぶりそぐ日光、ここだけは子どもの天国です。

これは日本児童遊園協会（社団法人、都の外郭団体）の事業の一つとして、行わ正在いります。子どもたちのはずんだ楽しそうな声、芝生の若芽にも似た生き生きした姿、すがすがしい空氣、さんさんとぶりそぐ日光、ここだけは子どもの天国です。

これは初代の協会長は、故倉橋惣三氏です。現在は、岸部福雄氏です。発会当時から昭和二十八年、永眠されるまで、この会に献身された方に、故末田ます氏がおられます。当時の公園部長、井下清氏（現農大教授）の御尽力もあって、一頃は外国との交歓に玩具や児童作品を戴いたり、鯉幟、人形などを贈りして、はなやかなものでした、あれから三十年。「子どもは人生の若葉であると共に、国家の宝玉である。子どもを強く正しく育てるのは、家庭の責任であり、また社会の義務である」と呼ばれた末田氏の御遺志が今もなお私どもの心に引継がれ、そして、子どもたちへの愛情になつて、保育され

ておりま
あります。日比谷公園が良い環境であること
はわかつても、周囲は日本一の交通量の多い
処で、保護者なくてはどうてい来ることがで
きません。少しでも保護者の負担を軽くする
ために、昭和三十一年四月から通園用のバス
を作つて戴きました。バスができて嬉しいこ
とは、子どもが安心して通園することです。

新学期は、親にはなれるのが不安で泣く子が
多いのですが、バスができるから、年少組
(満三才)の子どもまでが喜んでひとりで乗
ります。お帰り(午後一時半)もこれに乗れ
ば家に帰れる安心感があるので、とても楽し
く遊びます。バスの中では、街のいろいろの
ものが観察できるので、何でもよく知つてお
ります。

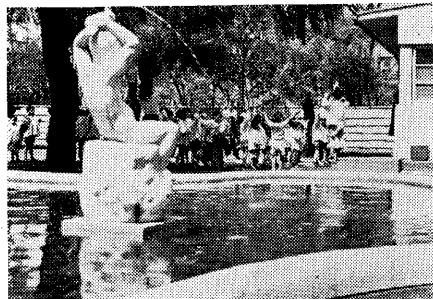
自動車の種類、名前などくわしいの
にはおどろきます。

オーバーランウェーブ、ジャンブルジム、コ
ンビネーション(おすべりとランコのつい

園児た
ちの保護
者は、皆
协会の特
別会員に
なって戴
き、会費
は月々取
められま
す。

さてこ
の園児は
どこから
来るのでしょ
う。日比谷公
園を中心として、
丸の内、有楽町、銀座、新橋、芝田村町、南
佐久間町、霞ヶ関、小田原町、などから通園
バスで来ます。

土一升金一升のたとえに住む子どもたちの
家は、高価な玩具、電化された文化生活はあ
つても、土に親しむ何もないのです。栄養は
じゅうぶん与えられても、日光に当らぬ植物
になりがちな都会の子どもに、日比谷公園で
の野外保育は、理想的な健康保育の場所でも



関橋も、白鳥もみせたい時はすぐつれて行きます。保育者は交替でバスに乗り、残った方が主に司会、準備をして、子どもたちを待ちます。バスから降りた子どもたちは出席カードをつけて、始まるまで自由遊びです。

園内の遊器具でとくに賑かなのは、砂場です。子どもたちは、実物大のボードをつくり保育者を乗せて喜びます。穴を掘るのが得意の子は、始めから終りまで掘っています。おだんご作りは、十個二十個と台の上にのせて買いに来るお客様を待っています。木の葉のお金を持って、保育者が行くと、おまけを沢山してくれます。始まりともなるとおだんご屋さんは、各自の秘密場所(主に砂場の台の下)にしまうので夢中です。次の遊びまで、大事な大事は宝物を……。これが入園の頃、靴に砂が入つても、いやがつた神経質な子どもだつたかと見直されます。

ランコは、立のり、腰掛、数多くあるので、順番を待たずに乗つております。

今は工事の都合で、とりこわされましたが円木渡りは実に上手でした。毎朝一回は必ず渡つたので、年少組まで両手を開いてきれいに渡りました。



て いるも
の) レボル
ヴィングバ
ラレルバ
ー、シーソ

ー、ホリゾ
ンタルラダ
ー (梯子を
水平に二米
位の高さに
ちの腕や足
固定したも
の鉄製) な
ど子どもた

など、四季のうつり変りを教えてくれます。
去年は園で各組毎に、朝顔のたねをまいて咲
かせました。芽が出て、二葉が出て、つるが

のびるのを、子どもたちは興味深く観察しま
したが、花の咲く頃が夏休みでちょっと残念
に思いました。

花だんには鳩が百羽ほどいて、人なれてい
るので、えさをやるとよって来ます。亀の子
お猿、小鳥もよく見ます。

雨あがりの道にいるみみずも、興味の一
です。どこから出で來たのか、太くて二三
十センチもする長さですから、保育者もた
じです。年少組の女の子は、みみずをみて
は保育者の

もの心がお面に現われるとでもいうのでし
ょか、自分に似た可愛いのをつくる子、怒
つた可愛い顔をつくる子、泣きべそ顔をつ
くりもします。お面で面白いことは、子ど

も自然物を利用しての手技に、落葉がありま
す。銀杏の葉でちようを作ったり、つるにし
たり、一たばいくらのお店やさんごっこをし
ます。さくらの葉でぞうり、はんてん木の赤
い葉に頭をかいて人形にしたり、プラタナス
の葉をてんぐのうちわにします。プラタナス
の葉は大きいので、目、鼻、口をはつてお面
つくりもします。お面で面白いことは、子ど



だちです。朝ビスケットのくずをまいて、集
会の後それがどこへはこぼれたか、みんなで
見に行つたりします。でんでん虫、ちょう
せみ、とんぼ、バッタ、かぶと虫、子どもた
ちは本当に虫ずきです。

自然物を利用しての手技に、落葉がありま
す。銀杏の葉でちようを作ったり、つるにし
たり、一たばいくらのお店やさんごっこをし
ます。さくらの葉でぞうり、はんてん木の赤
い葉に頭をかいて人形にしたり、プラタナス
の葉をてんぐのうちわにします。プラタナス
の葉は大きいので、目、鼻、口をはつてお面
つくりもします。お面で面白いことは、子ど
も心がお面に現われるとでもいうのでし
ょか、自分に似た可愛いのをつくる子、怒
つた可愛い顔をつくる子、泣きべそ顔をつ
くる子、まちまちです。どん葉は秋のこま作り
の良い材料です。風のあくる日は、かしの木
のある大音楽堂のそばへ拾いに出かけま
す。初冬の頃、いちょうの木の下で、ぎん
んを拾います。これはくさいので、箸を使い
ます。皮をむいて洗つて、ほしてから、いろ
いろに利用します。むくの木の下には、はね
のたまになる黒い実が落ちています。実のま
わりの皮は、石けんになり、水をつけてもむ
と、ぶくぶくあぶくが出ます。梅、まんざく

私どもは雨の日は、よく園内へ散歩に出かけます。花だんにくと芝生のみどりが目にしみて、花の色が一しおあざやかにうつります。春のさくら、れんぎょう、パンジー、チューリップ、たんぽぽ、藤、ばら、つつじ、しばざくら、夏のあじさい、ひまわり、百日草、朝顔、けいとう、秋の落葉、冬の木の芽

の良いお友

あります。花だんにくと芝生のみどりが目にしみて、花の色が一しおあざやかにうつります。春のさくら、れんぎょう、パンジー、チューリップ、たんぽぽ、藤、ばら、つつじ、しばざくら、夏のあじさい、ひまわり、百日草、朝顔、けいとう、秋の落葉、冬の木の芽

は小音楽堂のそばにあって、この花を見にゆく頃は、卒業も間近です。子どもたちのホッペは、リンゴのように赤くなり、入園当時の弱々しさは見られません。かれらの大好きな歌を一つ御紹介しましょ。「子どもは風の子、風の中、子犬も風の子、風の中、トットトット、かけまわる。びゅうびゅう北風、もと吹け」こうしてかれらの肉体的成长はもちろんですが心の成長もすばらしいものがあります。創造性ゆたかな心は、絵に手技に遊びに現われ、ころんでもひとりでおきる、自分のことは自分で、自主性のある子どもになりきっています。そして、広々とした自然に、いつも接しているので、こせこせしないおおらかな明るい子になっています。がまん強い人を許せる子にするためには、実演して興味をもたせました。倉橋先生作の「太郎さんがかけて來た」もよくうたいました。人には親切にすること、正しいこと、正しくないと、礼儀正しいことなどを、理解させるたまに実演は効果的です。

楽しい良いことばかり書きましたが、保育者にとって、つらいこともあります。午前中は少いのですが一般来園者もあることですか、自由遊びの時は、目を園のすみずみまでいきわたせています。六十名の園児に先生

一人は必ず全体に注意しとくに便所には気をつけております。

野外保育は外だけで良いものでしょか、実際にやってみると、雨の日風の日があります。帽子かけ、道具入れも必要です。保育者も園児も安心感がないと、楽しい保育できません。設備は立派でなくとも、やはり家が

園外保育小林操

幼稚園において、園の外に出ていく保育も野外保育の一つといえるでしょう。四季の移り変りや、自然に親しませるために、周到な計画を持って、有効になされねばならないでしょ。

三人、実習生二人ですから、手はありますが必要です。日比谷の場合、約三十分の集会は家で致します。ピアノによる歌も、リズム樂器の使用も、つみき、スライド、テープレコードも室内でします。お弁当も冬はストーブで暖められたものを戴きます。みどりの木陰に厚いござを敷いて、食後の休息に天を仰ぐ時、野外保育は良いなあと思います。

(筆者は日本児童遊園協会指導主事)

幼稚園の施設外に出て行って、園内では経験のできない生きた直接の体験を与えるながら保育しようというのが園外保育であろう。小学校における校外教授とか現場学習に該当するものが園外保育であって、幼稚園や保育所内の生活ではどんなに行き届いた教師の指導があつても、範囲の狭いことや、直接の経験が少くないことなどの条件に保育活動を制約されることはやむを得まい。それを補うたために園外保育も野外保育の一つといえるでしょう。

幼児に与える経験はできるだけ、範囲を広く、なるべく直接的であり、実際的であることが望ましい。幼児たちは、こうした経験によって、注意深く物を見る習慣が養われ、さらに正しく考え、正しく行動することを学ぶのである。

今日では、どこの幼稚園でも保育所でも園外保育を重んじて実施しているのであるが、